

素晴らしい世界の素晴らしさ

養蜂とは、ハチミツの素晴らしい世界!!

女王蜂と働き蜂の違い

といい、一つのコロニーは女王蜂1匹と多数の働き蜂（すべてメス）で構成された女系家族です。それが1匹の女王蜂を母親として生まれた姉妹の蜂の集合体なのです。働き蜂は、ヨコ向きの六角形の巣部屋で育ちます。一方、女王蜂になる卵は、巣の下側に数個作られる容積の大きい王台（特別室）に産みつけられ、ここで育てられます。部屋の開口部は下向きで、部屋の中の幼虫に對して、育児係の働き蜂は次から次へとローヤルゼリーを与えて続けます。六角形の部屋の幼虫には、最初はローヤルゼリーを与えるものの途中から花粉と蜜を混ぜた餌を与えるようになります。このように幼虫期の育て方の違いにより、女王蜂となるきなぎの体重は働き蜂の3倍ぐらいとなります。このように幼虫期の成虫になるのです。寿命も女王蜂は3～5年生きることができます。これに対し、働き蜂は数週間～数カ月と異なっています。

女王蜂は成虫となつた2週間前後で、多数の雄と交尾飛行を行つた後、雄蜂から受けた精子を体内に

蓄えておき、巣からほどんど出ることもなく産卵を続けます。1日に約2500個を産むことができるのです。

働き蜂の仕事

巣の中の仕事には昼夜の区別はなく、働き蜂は24時間シフトで働くのです。とはいっても休む間もないほど働きづめということもなぐく、1日の約3分の1が労働時間で、仕事の種別は短い寿命に合わせて日齢につれて変わつていきます。

まず、羽化した働き蜂は手近にある仕事を始めます。個々の蜂は定まつた仕事を一生するのではなく、若いときは育児や女王蜂の世話を、巣房の掃除などをします。その後は、ハチミツづくり、花粉の貯蔵、巣づくりなど、巣の中の仕事



事に携わる内勤です。一般に春から夏にかけては、女王蜂の産卵が旺盛で、新しい蜂が次から次と生まれるために、仕事の転換が早く、働き蜂の寿命が最も短縮される時期となります。やがて日齢を重ねて巣門に出て門番となり、さらには日を経て、花粉や花蜜を集めに外に出る外勤へと変わり、多数の仕事をこなすことになるのです。

すが、花にも糖度が高い花蜜を出
すものや薄い蜜の花などさまざま
です。花蜜を巣に持ち込んで、巣
の中にいる貯蔵係に渡すのですが、
貯蔵が充分にあるときは空いた巣
房を探すのに手間どり、濃い蜜か
ら順次受け取られていくので、薄
い蜜を持ち帰った採餌蜂はいつま
でも待たされることになります。

濃い蜜を受け取つてもらつた蜂
はダンスを踊り、巣の中に控えて
いた働き蜂がそれに呼応し、花の
方向と距離を教わつて濃い花蜜を
出している花に集中して通うよう
になるのです。

このように日齢の進行に伴う仕事の分業とを決定するのではなく、時間が呼び、時間を決してはなく、幼若ホルモン（JH）とよばれるホルモンが日齢進行に伴う行動（仕事）や、生理状態の調節をする仕事を整然とした。こうした。

ことがわかつてきました。こうして働き蜂は多種類の仕事を整然と分業し、コロニーを維持しているのです。

みごとな秩序社会



株式会社札幌山本養蜂園社長
久世佳弘

卷之三

女王蜂は成虫となつた2週間前後で多数の雄と交尾飛行を行つた後、雄蜂から受けた精子を体内に

種別は短い寿命に合わせて日齢につれて変わつていきます。まず、羽化した働き蜂は手近にある仕事を始めます。個々の蜂は定まつた仕事を一生するのではなく、若いときは育児や女王蜂の世話を、巣房の掃除などをします。その後は、ハチミツづくり、花粉の貯蔵、巣づくりなど、巣の中の仕

ことがわかつてきました。こうして働き蜂は多種類の仕事を整然と分業し、コロニーを維持しているのです。

個々のミツバチが二口二口全體の状況を把握しているわけではなく、自分の仕事のペースを全体の流れに合わせ、外界の餌資源や気候、日長などに合わせて変動し、直接あるいは間接的にほかの仕事と連動してコロニーが整然と営まれていくのです。種族維持のために産卵を担当する女王蜂と、その他の機能を行う働き蜂とが営むコロニーは、ミツバチという生き物の繁栄を目指した、みごとな秩序をもつた社会です。ここがミツバチの一群を社会性昆虫という所以なのでしょう。

011-873-3
札幌市白石区北郷2
ハチミツ関連商品
養蜂器具卸販売

011-873-13
札幌市白石区北郷2
ハチミツ関連商品
養蜂器具卸販売

3838